

図書紹介

奥本康大陸士54家族会員著

『正伝 出光佐三』

日本を愛した経営者の神髄

佐藤 正 陸自78

出光佐三といえば、出光興産の創業者で、明治から昭和の日本を代表する実業界の巨人です。

約10年前、百田尚樹氏が出光佐三をモデルとした国岡鐵造の生涯と、出光興産をモデルとした国岡商会の成長を描いた小説『海賊と呼ばれた男』を出版、ベストセラーとなり映画化もされて脚光を浴びました。

しかし、出光佐三は決して海賊ではありません。皇室を重んじ、国に貢献するという一念で戦前・戦中・戦後の国難に立ち向かった愛国者であり、消費者本位の姿勢を貫き、社員を家族のように愛し、出光興産を世界的な企業にまで発展させた、近代日本が生んだ偉人です。

著者の奥本氏は、出光興産のOBとして、また出光佐三から薫陶を受けた一人として、出光佐三の正しい姿を知ってもらいたいという強い思いで本書を執筆されました。

執筆に当たり、出光佐三のご嫡男で出光興産の名譽会長でもある出光

昭介氏から助言と資料の提供を受けています。また出光興産の社内教育資料も活用しながら、出光佐三の人物像の神髄に迫ります。

本書の視点は二つあり、一つは愛国者としての出光佐三の真骨頂、出光精神、出光理念、人こそ資本とする会社経営といった理念的な面です。もう一つは、生い立ち、会社の創業、海外への進出、戦時中の南方での石油配給事業、戦後の国際石油カルテルとの闘い、イラン石油輸入、日章丸事件、製油所建設などに奮闘する出光佐三の人生の足跡という視点です。その人生は、わが国の石油産業の発展と高度経済成長の歴史と濃厚に重なっています。

極めて異例のことですが、昭和天皇が出光佐三の死去に際し、追悼の御製をお詠みになられています。本書を一読されれば、昭和天皇の大御心が必ず伝わってくると思います。

展転社 定価1600円(税別)

